

病防第45号
令和元年（2019年）7月1日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第1号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

令和元年度（2019年度）発生予察特殊報第1号

令和元年（2019年）7月1日
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名 トルコギキョウ萎凋細菌病
- 2 病原菌 *Burkholderia caryophylli*
- 3 発生作物 トルコギキョウ（リンドウ科）
- 4 発生確認の経過
平成30年（2018年）8月、県北の施設栽培のトルコギキョウで、茎葉の萎れを呈する株が確認された。現場ほ場から検体を採取、菌分離し、農林水産省門司植物防疫所に同定依頼した結果、本病であることが判明した。
- 5 国内の発生状況
本病害は平成9年（1997年）に福岡県で初めて確認された。また、本病害の病原細菌はカーネーション、カスミソウ及びスターチスにも病原性を有し、それぞれの作物においても萎凋細菌病として国内で発生している。
- 6 病徴
地上部では茎葉が萎凋し、最終的には株全体が枯死する（図1）。茎には節間に縦方向の褐変、窪みまたは亀裂を生じる（図2）。また、茎を切断すると維管束部が褐変しており、切断面を水に浸すと白色の菌泥を生じる（図3）。地下部では、根が褐変し、内部は腐敗する（図4）。
- 7 防除対策
本病に対する登録農薬はないため、以下の耕種的防除を徹底する。
 - 1) 発病株は伝染源となるので、地下部も含めて抜き取り、ほ場外に持ち出すとともに適切に処分する。抜き取った発病株付近は継続して観察し、新たに発症する場合は適宜速やかにほ場外に持ち出す。
 - 2) 土壌伝染性の病害であるため、発生ほ場の土壌を未発生ほ場に持ち込まない。
 - 3) 病原菌は水によって伝搬されるので、ほ場の排水対策を徹底する。
 - 4) 連作ほ場や土壌消毒を行っていないほ場で発生しやすい。消毒が不十分な場合にはかん水に伴う地表面の流水や耕起作業等によってほ場内に病原菌を拡散してしまう恐れがあるため、処理には十分留意する。



図1 ほ場での発生状況



図2 節間の縦方向の褐変・窪み

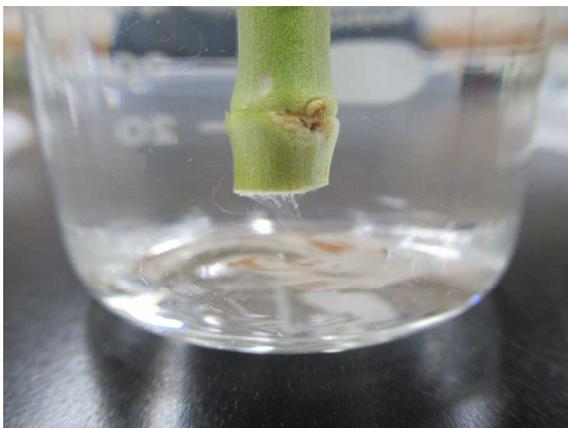


図3 菌泥の漏出



図4 根の褐変

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所

〔 農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係 〕

担当：齊藤、中村 TEL：096-248-6490